

第1章

計画策定の方針

第1節

計画策定の趣旨

第1次北斗市総合計画は、平成20年度から平成29年度までの10年間を計画期間として策定され、「あなたが主役 可能性を未来に」をシンボルテーマに掲げ、市民と行政が一体となりまちづくりを進めてまいりました。

この間、少子高齢化や人口減少の進行、地域間競争の激化、大規模自然災害等に備えた安全・安心の確保など、社会経済情勢や地域環境は大きく変化してきました。

そのような中、本市は、市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、行財政改革や地域の振興と発展に向けた様々な取組を進め、平成28年2月1日には北斗市誕生10周年を迎えたところであり、さらに同年3月26日には北海道新幹線が開業し、北斗市は新たなまちづくりを進める転換期を迎えたところです。

このようなことから、本市のさらなる発展への歩みを確かなものにするため、市民や行政をはじめ、多様なまちづくりの担い手が、めざすべきまちの将来像と目標を共有しながら、それぞれの役割と責務を果たし、将来にわたり活気あふれるまちづくりを進めていくための指針として、平成30年度から平成39年度までの10年間を計画期間とする第2次北斗市総合計画を策定するものです。

第2節

計画策定の基本的な考え方

- (1) 今後のまちづくりにおける課題の整理
各政策分野の現状分析を行うとともに、新たな対応が必要な事項を含めて、今後の課題を明確にした上で計画を策定します。
- (2) まちづくりの基本目標等の設定
上記の課題に加え市民等からの意見も踏まえ、まちづくりを進める上で本市がめざすべき「将来像」とその実現に向けた基本的な方向性を示す「基本目標」を定めます。
- (3) 計画を策定する上での基本姿勢
次の基本姿勢により、計画を策定します。
 - ① 市民参加の促進
総合計画策定審議会委員の一般公募や、審議過程の積極的な情報発信、パブリックコメント手続の実施により、市民意見の反映に努め、市民と行政が一体となって計画を策定します。
 - ② 社会経済情勢の変化への対応
少子高齢化と人口減少の進行や北海道新幹線の開業、近年全国的に発生している自然災害、市民生活の多様化に伴う地域コミュニティのあり方、地方創生の推進など、社会経済情勢の変化を的確に捉え、これからの時代に対応できる計画を策定します。
 - ③ 地域資源の活用
本市が有する豊かな自然環境や観光資源、豊富で新鮮な食資源、北海道新幹線をはじめとする交通拠点機能など、地域資源を活かすまちづくりに向けた計画を策定します。
 - ④ わかりやすさと実効性の確保
総合計画は、市民と行政の協働によるまちづくりの行動指針であるため、簡素で明確な内容や表現に努め、市民にとってわかりやすい計画を策定します。
また、人口減少などを背景として、今後も厳しい財政状況が続くものと予想される中、施策の選択と集中によって重点的な政策を描くとともに、成果指標を掲げることにより、実効性のある計画を策定します。